

4 果 樹

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 寒害被害等の事後対策</p> <p>(2) かんきつ類の春肥施用と除草</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寒害被害等の事後対策 ○かんきつ類の春肥施用と除草 ○かんきつ類のせん定 ○病虫害防除 ○落葉果樹の凍霜害対策 <p>向こう1か月の気象は、期間のはじめは気温がかなり高いが、2週目は平年並か低く、気温の変動が大きい見込み（令和6年2月15日高松地方気象台発表）。この時期の凍霜害の発生などは今年産の果実に大きな影響を与えるため、気象動向をこまめに確認する。</p> <p>ア 寒害被害等にあった中晩柑類の収穫 一般的にかんきつ類は-3°C以下が6時間以上続くと障害果が発生する可能性が大きくなる。積雪や低温等で果実に果皮障害や凍害が発生した園では区分採取、区分貯蔵を行う。収穫した果実は減量歩合5%程度の予措を行い、腐敗等が予想される果実は取り除く。</p> <p>イ 寒害被害等の事後対策 寒害により枝の枯込みが発生したかんきつ類は、被害が軽い樹では側枝を切り返して発芽を促す。被害が中程度以上の樹及びレモンは自然に発芽する時期まで待って、枯れ枝を除去する。積雪により枝折れがあった場合は、できるだけ早くせん除し、傷口にトップジンMペーストを塗布して保護する。</p> <p>ア 液肥の散布 樹勢衰弱園では、発芽・開花期にかけて窒素主体の液肥を数回散布し、早期の樹勢回復を図る。</p> <p>イ 春肥の施用 春肥は、新梢の充実や開花、結実、幼果発育のために必要なため、発芽前の3月上旬頃を目安に施用する（表1）。特に中晩柑類では、花による窒素の消費量が多いため、新梢の成長を促し、樹勢を維持するためにも春肥は重要である。また、施肥量の多い不知火は、3月上旬と4月上旬の2回に分施する。</p>

項 目	作 業 内 容																																																																																												
(3) かんきつ類 のせん定	表1 愛媛県施肥基準																																																																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品種名</th> <th rowspan="2">目標収量 (t/10a)</th> <th rowspan="2">施 肥 時 期</th> <th colspan="3">施肥成分量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>カリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>極早生うんしゅう</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>極早生うんしゅう(マルチ栽培)</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>早生うんしゅう(マルチ栽培含む)</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>普通温うんしゅう(マルチ栽培含む)</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>早生いよかん</td> <td>4</td> <td>3月上旬</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>不知火 (施肥量が多いので分施)</td> <td rowspan="2">3</td> <td>3月上旬</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月上旬</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ぼんかん</td> <td>3</td> <td>3月上旬</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>清見</td> <td>3.5</td> <td>3月上旬</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>河内晩柑</td> <td>6.5</td> <td>3月上旬</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>せとか</td> <td>3.5</td> <td>3月上旬</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>はれひめ</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>愛媛果試第28号</td> <td>4</td> <td>3月下旬</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>甘平</td> <td>3.5</td> <td>3月上旬</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	品種名	目標収量 (t/10a)	施 肥 時 期	施肥成分量 (kg/10a)			窒素	リン酸	カリ	極早生うんしゅう	4	3月下旬	6	5	5	極早生うんしゅう(マルチ栽培)	4	3月下旬	7	5	5	早生うんしゅう(マルチ栽培含む)	4	3月下旬	8	6	6	普通温うんしゅう(マルチ栽培含む)	4	3月下旬	9	7	7	早生いよかん	4	3月上旬	9	5	6	不知火 (施肥量が多いので分施)	3	3月上旬	6	4	5		4月上旬	6	4	5	ぼんかん	3	3月上旬	9	6	6	清見	3.5	3月上旬	9	7	7	河内晩柑	6.5	3月上旬	8	6	6	せとか	3.5	3月上旬	9	7	7	はれひめ	4	3月下旬	9	7	7	愛媛果試第28号	4	3月下旬	10	6	7	甘平	3.5	3月上旬	9	7	7
	品種名				目標収量 (t/10a)	施 肥 時 期	施肥成分量 (kg/10a)																																																																																						
		窒素	リン酸	カリ																																																																																									
	極早生うんしゅう	4	3月下旬	6	5	5																																																																																							
	極早生うんしゅう(マルチ栽培)	4	3月下旬	7	5	5																																																																																							
	早生うんしゅう(マルチ栽培含む)	4	3月下旬	8	6	6																																																																																							
	普通温うんしゅう(マルチ栽培含む)	4	3月下旬	9	7	7																																																																																							
	早生いよかん	4	3月上旬	9	5	6																																																																																							
	不知火 (施肥量が多いので分施)	3	3月上旬	6	4	5																																																																																							
			4月上旬	6	4	5																																																																																							
	ぼんかん	3	3月上旬	9	6	6																																																																																							
	清見	3.5	3月上旬	9	7	7																																																																																							
	河内晩柑	6.5	3月上旬	8	6	6																																																																																							
	せとか	3.5	3月上旬	9	7	7																																																																																							
	はれひめ	4	3月下旬	9	7	7																																																																																							
	愛媛果試第28号	4	3月下旬	10	6	7																																																																																							
	甘平	3.5	3月上旬	9	7	7																																																																																							
	<p>ウ 春草の除草</p> <p>春草による肥料成分の競合を抑制するために、前もって除草を行う。除草することで裸地となり、地温の上昇とともに根の活性が高まり、春肥の吸収効率も高まることから、春草は早い時期に除去する。</p>																																																																																												
	<p>ア うんしゅうみかん</p> <p>花と新梢のバランスのとれた樹を目指す。また、高品質な果実を生産していくために樹体内部への日当たりが良くなるよう整枝・せん定を行い、受光環境の改善を図る。</p> <p>(ア) 前年の着果が少なかった樹</p> <p>着花数が多いと新梢の発生が少なくなり、来年の結果母枝を確保することができない。そのため、できる限り早くせん定を開始し、切り返しせん定を主体にして芽を吹かす。また、予備枝を設定して新梢の発生を促す。</p> <p>(イ) 連年安定生産している樹</p> <p>着花と葉数のバランスを保ちつつ、できるだけ軽いせん定を行い、樹冠内部まで光が入るよう亜主枝上の立ち枝や内向枝を除去する。</p> <p>(ウ) 前年の着果が多かった樹</p> <p>せん定はなるべく遅く行い、着蕾を確認してから間引きせん定を行う。樹冠外周部の果梗枝の除去を中心に軽いせん定を行い、着花の確保を図るため、かぶさり枝や養分競合を起こしそうな枝を間引く。</p>																																																																																												

項 目	作 業 内 容																												
	<p>ウ 防風林の刈込み 冷気の停滞による霜害を防ぐため、防風樹の下枝は事前に刈り込んでおく。</p> <p>表2 なしの発育程度別にみた霜害を受ける危険限界温度</p> <table border="1" data-bbox="467 510 1227 748"> <thead> <tr> <th>発 育 程 度</th> <th>危険限界温度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 未着色の硬い蕾が果そう内で分かれた時期</td> <td>-3.5℃</td> </tr> <tr> <td>2 蕾の先端が淡いピンクの時</td> <td>-2.8℃</td> </tr> <tr> <td>3 蕾が白色になった時</td> <td>-2.2℃</td> </tr> <tr> <td>4 開花直前</td> <td>-1.9℃</td> </tr> <tr> <td>5 満開期</td> <td>-1.7℃</td> </tr> <tr> <td>6 落花期</td> <td>-1.7℃</td> </tr> <tr> <td>7 落花直後～10日頃までの幼果期</td> <td>-1.7℃</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)危険限界温度は、花、幼果あるいは新梢の植物体温で、30分以上続くと危険である。[品種：長十郎] (井上)</p> <p>表3 ぶどうの発育程度別にみた凍霜害安全限界温度</p> <table border="1" data-bbox="467 891 1018 1070"> <thead> <tr> <th>発育ステージ</th> <th>安全限界温度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 発芽期</td> <td>-4.6℃</td> </tr> <tr> <td>2 1葉期</td> <td>-2.0℃</td> </tr> <tr> <td>3 2葉期</td> <td>-2.0℃</td> </tr> <tr> <td>4 3葉期</td> <td>-2.0℃</td> </tr> <tr> <td>5 4葉期</td> <td>-1.8℃</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)安全限界温度は、1時間以上おかれた場合、わずかでも障害を受けるおそれがある温度。[品種：巨峰] (福島県)</p>	発 育 程 度	危険限界温度	1 未着色の硬い蕾が果そう内で分かれた時期	-3.5℃	2 蕾の先端が淡いピンクの時	-2.8℃	3 蕾が白色になった時	-2.2℃	4 開花直前	-1.9℃	5 満開期	-1.7℃	6 落花期	-1.7℃	7 落花直後～10日頃までの幼果期	-1.7℃	発育ステージ	安全限界温度	1 発芽期	-4.6℃	2 1葉期	-2.0℃	3 2葉期	-2.0℃	4 3葉期	-2.0℃	5 4葉期	-1.8℃
発 育 程 度	危険限界温度																												
1 未着色の硬い蕾が果そう内で分かれた時期	-3.5℃																												
2 蕾の先端が淡いピンクの時	-2.8℃																												
3 蕾が白色になった時	-2.2℃																												
4 開花直前	-1.9℃																												
5 満開期	-1.7℃																												
6 落花期	-1.7℃																												
7 落花直後～10日頃までの幼果期	-1.7℃																												
発育ステージ	安全限界温度																												
1 発芽期	-4.6℃																												
2 1葉期	-2.0℃																												
3 2葉期	-2.0℃																												
4 3葉期	-2.0℃																												
5 4葉期	-1.8℃																												

(作成 果樹研究センター)